

<小学生の部>

最 優 秀

「アメリカからお姉ちゃんが二人やって来た」

甲府市舞鶴小学校4年 望月 心晴

今年の6月に、わたしの家に、アメリカの女の子が、2人やって来ました。なぜかというと、わたしの家でホストファミリーを受け入れたからです。1週間一緒にすごす事になりました。アメリカから来た女の子の一人の名前は「アンナ」です。アンナは、白人です。もう一人は「カイヤ」です。カイヤは、黒人です。二人をおかえた時、最初は日本語が通じなくて、何をしゃべっているのかわからず、ドキドキしました。お父さんや、お兄ちゃんやお姉ちゃんが、家の中を案内したり、自己紹介をしました。夜おそかったので1日目はそれで終わりました。2日目の朝、「グッドモーニング」でスタートしました。初めての朝ごはんは、日本にきたから和食を食べさせてあげたいとお母さんとおばあちゃんがおはんとおみそしると目玉焼きとソーセージを作ってくれました。食べられないとかわいそうなので、コーンフレークやパンも用意しておきました。わたしは二人が、ごはんを食べられるか心配でした。アメリカでは、はしを使わないので、フォークとスプーンも用意しておきました。

「これは、はしだよ。」

と英語で言い、わたしであげました。食べ始めてしばらくしてから、はしを使おうとしていました。なので、わたしがはしを使う所を見せました。すると、わたしのマネをして使っていました。二人とも、運んでいると中に落してしまったり、つかめなかったり、なかなか口に入りませんでした。2日目はリニア館や河口湖に行きました。お友達も来て大ぜい行きました。みんなで一生けん命英語を話しました。初めは、しずかだった車の中もいっしょにいるうちに、にぎやかになりました。わたしは英語がわからないので、みぶり手ぶりやスマホやタブレットのアプリで会話をしました。夜は、お母さんがタコライスを作ってくれました。これは、「おいしい」と日本語で言って、おかわりもしました。3日目は、お兄ちゃんのお友達も来て、風穴に行き、帰りはボーリングをしました。二人とも上手でわたしは負けてしまいました。その後、一緒にプリクラをとりました。すごくよろこんでいました。そして、「ラーメン」を食べに行きました。「おいしい」と言って食べていました。4日目からは、とってまなれ、英語と日

本語とけいたいのアプリでいろいろな事を話しました。二人がすんでいるアイオワの事も教えてもらいました。アメリカのお友だちの写真も見せてもらいました。一緒にトランプをしたり、おもちゃのゲームで遊んだりしました。あっという間に最後の夜になってしまいました。この日は、アンナのたん生日がちかいのでたん生日パーティーと、おわかれパーティーをしました。日本で一緒に遊んだ思い出を全部アルバムして、手紙を家族みんなで書いて、二人にプレゼントしました。二人とも

「センキュ」

となん回も言って、ずっとアルバムを見ていました。わたしは二人が本当に帰ってしまうのが、悲しくて泣いてしまいました。そしたらアンナがギュッとだきしめてくれました。アンナも泣いていました。そして、一緒に遊んだ手あそびや、「アルプス一万尺」をしました。その日はいっぱい泣いたのでつかれて、すぐ寝てしまいました。そして次の日は、二人との本当におわかれの日。ついに二人が乗るバスが来て、

「また、ぜったい会おうね。」

とやくそくしました。とってもとって悲しくて、バスが発したらお姉ちゃんと追いかけて走りました。とても楽しかった1週間でしたが大へんな事もありました。それは食べ物のちがいです。お米は少し食べられましたが、おすし屋さんでのすめしは食べられませんでした。反対におみやげにもらったアメリカのグミは、いつも食べているグミと味がちがい、食べられませんでした。日本とアメリカでは言葉だけでなく、食べ物や使う物がまったくちがうという事がわかりました。言葉も食べ物もちがうけれど、仲良くなれる事もわかりました。アメリカにも友だちが出来た事が、とってもうれしいです。二人はアメリカに帰ってしまったけれど、今もメールでお話しています。

またいつか、会える日を、ずっと、待っています。早く会いたいな。